

キラリ★話題の「ひと」



熊倉 百合子 さん
(黒袴町)

○プロフィール

JICA栃木デスク
「NPO法人子どもとなり佐野」
副理事長

地元の子を地元で

青

2008年から2年半インドネシアに赴任した熊倉さん。現地教員の指導、ノンフォーマル学校の先生やさまざまな理由で学校に通えなくなった子どもたちの支援を行ったほか、子どもたちがその中で得た知識やスキルを身に付け、生活向上につながる活動も行ったそうです。

2010年に帰国したとき、日本の子どもの6人に1人が貧困という日本の課題に直面し「学校以外の場で、自分の生まれ育った佐野の子に何かできないか」と考え、大学院で自分がやるべきことを探り、学び直したそうです。その後「JICA(※)栃木デスク」として、栃木県の窓口として勤務しながら、2018年より「NPO法人子どもとなり佐野」の副理事長として、子どもたちの支援を行っています。同法人では、市内外の家庭や事業所に呼びかけ、余剰品の寄付をいただき、子育て世代に配布しています。

同法人が活動する一軒家では、

食事、学習、居場所づくり、相談事業をしています。家の中は浴室も広く、キッチンが食品衛生法に沿ってリフォームされています。学習支援や食事担当のボランティアの年齢層は幅広く、市内に通う高校生も10人以上参加しているそうです。しかし現在はコロナ禍のため、子どもたちに十分な支援がしづらい状態とのこと。

「佐野の全ての子どもが子どもらしい時間を過ごすために、私たちが少しでも力になれば。現在ここに来ている子どもたちが将来誰かを支える側になることを期待しています。市民の皆さんには活動内容をご理解いただき、子どもたちと一緒に応援してください」と、これからの意気込みを熱く話してくださいました。

(市民記者 中里聖子)

※独立行政法人国際協力機構



▲年末食材配布会の様子

市長からのメッセージ

先月、市長となって初の市議会定例会に臨ませていただきました。一般質問では18名の議員が登壇され、市政全般についてさまざまな角度からの質問が展開されました。議員の皆さんからの提案や要望、そしてご意見を頂けることは、大変ありがたいと思っています。特に今回は、議会初日に施政方針演説を行い、6党派代表による質疑を受け、私の公約の実現に向けて動き出しました。「こどもの街宣言」にふさわしい子育てがしやすい環境については、第2子以降の保育料および高校3年生までの医療費無料化や健康長寿佐野づくり条例の制定など具体的に説明を申し上げました。今後も公約について市長メッセージを活用し、皆さんにお伝えしていきたいと思えます。

また、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種につきましては、医療・介護従事者のワクチン接種が進み、現在高齢者を対象に接種を進めています。予約受付などではご迷惑をお掛けしていますが、適宜対応してまいります。高齢者に続く一般枠の会場につきましては、接種人数により会場の見直しも検討してまいりますので、今後、市からの情報提供をお待ちいただきたいと思います。なお、ワクチンについては、十分確保できる予定ですので、余裕を持った予約をお願いいたします。

(6月11日 記)

金子 裕

今回の表紙 「茂呂山公園で赤ちゃん鹿が誕生！」 令和3年6月11日撮影

6月8日(火)と12日(土)に、茂呂山公園で鹿の赤ちゃんが生まれました。茂呂山クラブでは、7月19日(月)まで赤ちゃん鹿の名前を募集しています。ぜひご応募ください。





地域とともに癒しを届けたい

5 月下旬ごろから梅雨の時季の約1カ月間、富士町の唐澤山神社で、手水舎に色とりどりのアジサイの花を浮かべる「花手水」が参拝者を出迎えていました。

地域の人たちからアジサイの寄付もあり、今年で3回目を迎えることができました。

唐澤山神社の佐野禰宜にお話を伺うと「現在はコロナ禍でお参りに来ていただける皆さんに花手水を見ていただいて、少しでも癒しをお届けできれば幸いです。これからも地域とともに梅雨の時季の恒例行事として皆さんに元気と癒しを届け続けていきたいです」と話していました。

(市民記者 飯田瞬)



消防団による消防訓練の実施

6 月6日(日)、田沼グリーンスポーツセンターにて、市消防団による消防訓練が行われました。この訓練は、毎年実施していた「市消防操法大会」が中止になったことに伴い、その代替訓練として実施されたもので、全31分団、約250人が参加しました。

当日は放水・中継訓練が行われ、消防車両11台を全長1.3キロメートルのホースでつなぐ訓練が行われました。また、無線による情報伝達訓練も行われ、支団長の無線から詳しい指示を受けるなど、より本番に即した方式で実施されました。

谷和文消防団長は「災害はいつどこで起こるか分からない。地域の安心安全を我々が守るんだという意気込みで訓練に臨んでほしい」とお話しされました。



方言助詞 ばんたい

方言助詞のはたらき — その1 —
「ド」は「ぞ」が変化したもので、
意味を強めるはたらきをする

「これは何ですか」の「か」は、相手にものをたずねるときに使い「だれか来たぞ」の「ぞ」は「来た」を強めるときに使います。このような「か」や「ぞ」を助詞といえます。

助詞にも方言があつて、いろいろなはたらきをします。その例を挙げてみましょう。

まず、方言の助詞「ン」は、どんなはたらきをするのかについてみてみましょう。

道端で親しい人に出会ったりすると「あらっ、これからどこへ行グン？」などと田舎弁で聞かれることがあります。このように方言では、共通語の「の」や「か」を使わず、「ン」を使つてたずねるのが普通です。

「誰が来たン?」「どんな映画を見たン?」「新ジャガをもう食べたン?」の「ン」には、ぞんざいな感じはなく、むしろいいねいさがあり、親しさがああります。今でも疑問の助詞の「ン」を使う人が多いのはそのためでしょう。

次に、方言の「ド」 という助詞は、どんなはたらきをするのでしょうか。

「玄関に誰か来たド」「あの人は昨日どこかで見たド」の「ド」は、共通語の「ぞ」が変化したものです。「ド」のように音を伸ばしていうこともあります。「ぞ」と同じように「来た・見た」を強めるはたらきをします。「ド」はあまり聞かれなくなりましたが、昭和の中ごろまでは多くの人が使っていました。

(市民記者 森下喜一)

私たちに名前をつけてね。

- 令和3年6月8日生まれ(女の子)
- 令和3年6月12日生まれ(性別未確認)

